うらばなし２

ものがたり

「山十邸を見た時、普通の古い家に見えたんです」

「古い家だからこそ、元々住んでる人がいて…古い家族の話にしようとぱっと浮かびました」

「ちょっとずつちょっとずつ気づかせるようにしたいちょっとずつ違和感を持たせたかった」

シュ　ロケハンの時、行きたい場所は決まっていたんですか？
石山　各人が出したプロットをもとに、こういう景色をどこで撮りたいとか、どこを見たいというのがありました。
土井　とりあえずカメラを持って行って、ためし撮りをしながら回りましたね。
武田　僕はロケハンに行けなかったんですが、お寺の確認をお願いしていて。
シュ　清雲寺にも行かれたそうですね。
石山　すごく素敵で印象的なお寺でした。
松下　住職さんがすごく優しかったです。
土井　奥まで入れていただいて。
石山　結果的にロケ地にはならなかったんですけど、ここで1本作りたいと思いました。
シュ　山十邸でのロケハンは？
土井　自分が撮りたい絵は見えていたので、どういう風に撮ればいいかな、どちら側から撮れば、普通の家に見えるのかなって確認していました。松下に畳へ寝転がってもらって、その戸から入ってきたら、いい感じの絵になるかなとか。ネタをしっかり固めた感じです。
松下　ちょっと寝てみて？うん、いいねって。ここはこう歩いてとか。
土井　冒頭のシーンを頭に浮かべていたんですね。
ＣＤ　ああいう視点で山十邸を撮った作品は無かったように思います。奥行きのある住宅に見えて新鮮でした。
土井　山十邸はすごく綺麗な家で。良い意味で大きくて、庭も広い。その時点で温かい雰囲気が漂ってるじゃないですか。そこに古い家族が住んでいて…来た人がもてなされている風景がいいなって思いました。
石山　台所もあったしね。
土井　あの雰囲気もよかった。囲炉裏も良かったし使わない手はないなと思いました。
ＣＤ　あの物件は、月いくらぐらいで借りられるんですか？
土井　10万円ぐらいじゃないすか（笑）
武田　もっと安いでしょ（笑）
土井　頭が東京価格になってる（笑）いわくつきの物件なんで3万くらいでどうですか。
石山　特に害が無いオバケが住んでます（笑）
土井　「お試し住宅」のアイデアは、5分の中でお客さんを騙せるようなサプライズがないとダメだと思って。プロットの段階で固めてはいましたが、ロケハンに行って、アングルやストーリーも固めた感じです。
シュ　ロケハンから撮影までの間に台本を書き上げた感じですか？
土井　そうですね。LINEのノート機能を使って、プロットやストーリーを書いて、台本に起こす。全員分のシーンとセリフを作って、いざ撮影って感じです。
石山　本当、怒涛でしたね。
シュ　「にちじょう」のストーリーを考えついたきっかけを教えてください。
土井　公式サイトで山十邸を見た時、普通の古い家に見えたんです。古い家だからこそ、元々住んでいる人がいて…古い家族の話にしようってぱっと浮かびました。この家を使った「家族愛」の話にしようと。僕、オバケのエンタメ性が好きなんです。だから、オバケたちが実際に住んでいる人たちを助ける話にしようと。その時点ではオチが弱かったんですけど、石山さんから「体験住宅」の話を聞いて、ここを利用する人たちに実際住んでもらうために、手助けをさせようって。
石山　家財はこちらが準備できないので、あるものを使わせていただこうというのもあって、「お試し住宅」という設定に行き着きました。趣味で山を歩くことが多くて、山の入り口で、そういう張り紙を見つけるんです。
シュ　山十邸を「お試し住宅」に紐づけたのにはびっくりしました。
石山　そこは、土井の手腕ですね。大人数の話は、最初からぱっと浮かんでたよね。
土井　大人数いるけど、その中で存在しているのは数人だよというのをやりたかった。
シュ　ワッとくるんじゃなくて、伏線を張って表現していくのがすごかったです。
土井　伏線の張り方をどうしていこうか…5分という短い時間で騙さないといけない。でも、温かい作品にしたい。ちょっとずつ、ちょっとずつ気づかせるようにしたい。ちょっとずつ違和感を持たせたかったんです。なんか変だなって。
ＣＤ　「にちじょう」・「ぜんじつ」・「よくあさ」と、平仮名を使った狙いは？
土井　全部漢字で書ける言葉なんです。平仮名にすると、柔らかい印象になるのもあるけど、裏の意図としては、非現実的な面を出したかった。これは本当の出来事じゃない、違うんだと。そこでも伏線を張りました。
シュ　「にちじょう」というタイトルの意味は？
土井　「家族愛」を描くというところで、観る人が思い描くであろう、ちょっと田舎の、昔ながらの家族…王道みたいな、田舎の家族の日常生活を描きたかったんです。タイトルからも、観る人の先入観を「家族の日常を描いているんだ」という風にしたいと思いました。

にちじょう　監督・脚本
土井　克馬（どい・かづま）

1987年生まれの31歳。愛知県出身。2001年に俳優を志し、活動を始める。一時学業専念・就職による休業後、2014年より活動を再開。現在、舞台制作ユニット「りらっくす」主宰。年間7～8本の舞台に出演しているほか、脚本・演出も精力的にこなし、2016年からは映像作品にも出演している。
趣味は食べること。1番好きな食べ物はたこ焼き。理学療法士としての一面も持っている。

●最優秀賞「にちじょう」映像制作チームOR→Pインタビュー